

フジコン、バスバー 拡販

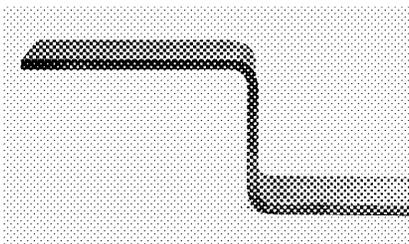
プリント基板向け 複雑形状に対応

フジコン（東京都大田区、大島右京社長）は、プリント基板向けのバスバー（写真）事業を本格化する。主力事業の端子台製造・販売に加え、試験的にバスバーを販売したところ、顧客からの反響が大きく、事業化できると判断した。生産体制を整え、拡販に乗り出す。

フジコンは、材料の幅方向に成形するエッジワイズ曲げなど複雑形状のバスバーに対応する。顧客仕様の特別注文品を1個から生産までできる。

銅製で長さ1500ミリのまま、幅10ミリのバスバーは、厚さ2ミリのバスバーを中心に手がける。生産はバスバーの専用設備を持つ協力会社が行う。

バスバーは、基板上のパターンを幅広にするよりも、発熱を抑えて小面積で大きな電流を流せる利点がある。顧客が自ら板金加工会社にバスバーを注文す



ることも多いという。フジコンはバスバーを端子台に続く主力事業に成長させたい考えだ。